

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	2871400426		
法人名	特定非営利活動法人 にしきシャクナゲ		
事業所名	グループホームしゃくなげ		
所在地	兵庫県篠山市川北1174番地2 (電話) 079-593-0056		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	2009年4月6日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算	7.95人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	約27,000 円	
敷金	有(100,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	7名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	86 歳	最低	82 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	にしき記念病院
---------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・ホームは田園地帯にあり、広い食堂からは竹やぶや周囲の畑を眺められ、四季を感じることができる。木造の建物は吹き抜けの高い天井、太い梁、天窓、壁、廊下と木の特質を活かした内装で、明るく落ち着いた穏やかな雰囲気である。管理者は福祉、医療、介護保険の資格を持ち、総合的なサービス提供を目指している。重度や終末期の利用者に対しては、医療との連携のもと、日々をよりよく暮らせるようできるだけだけの支援をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会を通して地域との交流はあるが、地域密着型理念としては作られていないので次年度は明確化する予定である。職員異動は報告していなかったが、「しゃくなげ便り」に職員の顔写真に個々の抱負をつけて載せ、安心して任せてもらえる関係づくりをめざした。 <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員に自己評価項目を回覧し、出た意見を参考にし管理者がまとめた。職員は評価を通して日頃のケアを思い返し、介護の基本を大切にする気持ちになった。
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には家族、地域代表、地域包括支援センター、介護相談員等が出席しているので、困難事例について助言を得ている。会議後、ホーム行事の参加や夜間の様子を見学してもらったが、率直な感想や意見をサービスの質の向上に反映させている。
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦情は表面的には出てこないもので、面会時に時間をとって家族の意見を聞くように心掛けている。介護計画作成時は個別に説明し、家族の希望を確認している。
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者が自治会の役員であり、地域で認知症の啓発活動を展開していたので、事業所は地域に受け入れられている。消防地域合同訓練時には、地元消防団員が利用者を避難誘導するなど協力関係はよく取れている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・管理者が自治会役員を引き受け地域との交流を続けるなかで、地域密着型サービスとしての理念の実践はなされてきた。しかし、事業所独自の理念としては作られていないので、次年度は作成する予定である。		・事業所は在宅支援を展開し地域密着型としての実践をしているので、地域にその実践がより広く周知されるよう理念の明確化を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員は理念を活かした利用者の個別援助ができるよう、月1回の支援会議で話し合っている。管理者は年1回の面談時に、職員が理念をより理解できるように説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・管理者が自治会役員として活動してきたので事業所は地域から受け入れられている。消防地域合同訓練時には、地元消防団員が利用者を避難誘導するなど住民との連携が取れている。また、利用者の買物に付き添うボランティアもあり、住民との交流も続いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は職員の意見を取り入れ管理者がまとめた。職員は評価を通して日頃のケアを思い返し、介護の基本を大切にする気持ちになった。運営推進会議にも評価内容を説明し、会員の意見は運営改善のために活用している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・家族、地域代表、地域包括支援センター、介護相談員等が出席し、3ヶ月に1回開催。困難事例を報告し助言を得ている。運営推進会議後に、メンバーが利用者とともに行事に参加したり、夜間の様子を見学してもらったこともある。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・管理者が市職員への講座や住民学習会の講師を引き受けるなど、市担当者との連携は良好である。認知症家族会は市が運営しているが、事業所として連携、協力する話が出ている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・「しゃくなげだより」には利用者の暮らしぶりを写真つきで載せ、年4～5回発行している。新年号に職員の顔写真と今年の抱負を紹介し、安心して任せてもらえる関係づくりを目指している。金銭管理は毎月送付し、状態変化など緊急時にはその都度速やかに家族に連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・玄関の意見箱には1通も入らないので、面会時に時間をとって家族の意見を聞くように心掛けている。介護サービス計画は個別に説明し、家族の希望を確認している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・併設のデイサービス開所時に職員の異動を行ったが、引継ぎには十分な時間をとった。最近では移動が殆どないので利用者との関係は順調である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修には事業所の援助により参加できている。また日々の介護の中での気づきを職員各々がホワイトボードに書き出し、意見を集約して1ヶ月1回の支援会議で検討し、内部研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者は市の事業者連絡会や介護支援専門員交流会にも出席し、意見交換を行っている。来年度はグループホームが3ヶ所となる予定であり交流も考えている。		・事業所が展開している在宅支援の実践が地域で広く周知されるよう、リーダー役として、同業者とともに啓発活動を続けてほしい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前の家庭訪問で生活状況を把握し、見学会を通して利用者との安心の関係づくりを目指している。併設のデイサービス利用から入居する利用者は、馴染みの穏やかな関係で入居できている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・ともに暮らすという理念を意識し、利用者を人生の先輩として寄り添う介護を心がけている。季節ごとの行事、花の名前、野菜の名前と調理方法など、生活の中で利用者から教わることが多い。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用者一人ひとりの意向を把握し、職員間で話し合い共有している。言葉が出ない全介護の利用者に対しては、表情に感情が表れるので見逃さず受けとめるようにしている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・職員は支援会議などで利用者の現状を報告し介護内容を検討している。管理者は介護支援専門員であり看護師の資格もあるので、かかりつけ医の意見を参考にし、職員の意見や家族の意向も尊重して計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・職員は日々の生活のなかで、利用者の状態の変化を記録し話し合いを重ね、利用者が満足できる介護を意識している。定期的には6ヶ月に1回の計画見直しであるが、利用者の反応や状態の変化に応じて個別に見直すようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・可能な限りの医療行為で、入院を防ぐよう努めている。必要に応じ併設のデイサービスの機械浴も利用している。2週間毎の往診やかかりつけ医への受診介助等で、安心して暮らせる支援がなされている。地域に向けて、ホームの短期入居利用や認知症サポーター養成講座への協力も行っている</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・協力医療機関の医師をかかりつけ医としているが、希望があればこれまでのかかりつけ医の受診支援をする。受診には職員が付き添い、ホームでの様子を伝え、場合によっては家族にも同行を要請する。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・医療連携体制加算を取って、看取りについて、入居時に説明している。状態変化に応じて家族等に確認、医師との連携を取り、職員を含め方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・利用者が混乱した時には否定することが、プライドを損ねる。態度、言葉に特に気をつける支援を心がけている。個人情報については、職員入職時に誓約書を取り交わしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・その人らしい暮らしとはその人の持てる能力をいかに使うかであり、できる限り体を動かし、言葉を発してもらおうよう働きかけている。個人のペースを尊重し、無理強いせず、常にお願する姿勢で付き添っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立作りを利用者、職員で料理の本を見ながら話し合う。買い物も利用者と一緒にいき、調理、片付けに至るまでの流れを利用者と一緒に行っている。職員は利用者と一緒に食事をし、食事が楽しいものになるよう努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴時間帯は決まっているが、入浴時間や曜日はできる限り希望に対応している。入浴拒否の利用者には健康面からも、最低週1回は入浴してもらうよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・買い物、調理、掃除、その他の日常生活の行為場面にどれだけ参加できるかによって、利用者の役割が広がるとホーム長は話している。脳活性化ゲームを取り入れ、思い切り笑って生活に変化ができるよう工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物やドライブに行く等個別外出を支援している。散歩で季節の変化を楽しんだり、途中で喫茶店に立ち寄りしたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠はしていない。鍵をかけないリスクを家族は納得している。玄関にセンサーを設置しているが、利用者が出かけることは止めないで職員が見守っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年1回地元消防団と合同で避難誘導訓練をしている。夜間想定も合同で行う。救急救命の講習を利用者も一緒に受けている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・食事摂取量をチェックし、水分は1日の目安を定め、確認している。不足している人には、栄養剤やゼリー、点滴などの支援をしている。カウンターにはお茶が置いてあり、自由に飲めるようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・木の温かみがある建物である。床暖房や直接光が差し込まないようにロールスクリーンが取り付けられ、居心地よい工夫がなされている。ソファの設置や座る場所の工夫で一人ひとりの居場所作りがなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室の内装も木材で落ち着ける雰囲気になっている。馴染みのある家具や茶碗等を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせる工夫がなされている。</p>		

 は、重点項目。